

2020 年度 事業報告書



JOCS の支援で購入した衛生用品を手にするインドネシア シナルカシ病院の院長・元奨学生（左）とスタッフ（災害救援復興支援先）

JOCS MIC 医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人

日本キリスト教海外医療協力会

JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目次

1. 今年度の歩み	1
2. 中長期計画における位置付け	3
3. 海外諸活動	3
3-1 海外派遣	3
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	3
(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー	5
(3) 短期	6
3-2 奨学金事業	6
3-3 協働プロジェクト (プロジェクト・りとる)	13
(1) SALT (次世代のための健康と衛生) プロジェクト カンボジア	13
(2) シロアムプロジェクト ケニア	13
(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト タンザニア	14
3-4 災害救援復興支援	15
4. 国内諸活動	17
4-1 国際保健人材育成	17
4-2 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動	19
4-3 マーケティング	23
5. 運営体制	27
5-1 社員総会	27
5-2 理事会	28
5-3 委員会	28
5-4 事務局	30
6. 一般会員・サポート会員の現状報告	30
7. 2020年度の主な動き	31

1. 今年度の歩み

＜常務理事 大友宣＞

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。（ヨハネによる福音書 20 章 19 節）

2020 年度は世界中が新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年となりました。国内外問わず JOCS に関わる一人ひとりが、経験したことがない大変な思いをしたことと思います。ヨハネは、イエスが亡くなった後ユダヤ人たちを恐れて家の中に閉じこもる様子を書いています。それはあたかも私たち一人ひとりの今の状況の様です。このコロナ禍で弱いものはさらに押しのけられようとしています。JOCS はその中で、主にある平和を創り出すため、祈り、実践してきました。そして、イエスは「あなたがたに平和があるように」と語りかけてくださっていることを私たちは知っています。JOCS の平和を創り出す活動の最前線にいるのは、ワーカーやワーカーが働く現地の組織の方々、現奨学生や奨学生修了者、協働プロジェクトの方々、事務局員たち、そして、現地で病気や貧困のただ中にあるの方々です。そしてその活動が今年も会員、支援者、ボランティアの皆さんによって支えられました。

岩本直美ワーカーはバングラデシュの知的障がい者と共に生きる第 7 期の活動中です。祈りの中であって、コロナ禍で脇に追いやられそうになるコアメンバーやその家族と共に歩み、キリスト者としての生き方と喜びを伝えてくださっています。雨宮春子ワーカーはタンザニアにあるタボラ、カリウアからコロナ禍で急遽帰国しましたが、離れてはいてもオンラインで現地の方々と共に歩むことを続けています。また、国内の介護クラスターの支援に向き、取り残されているの方々と共に歩みました。

2020 年度は奨学生に対して支援を強化して実施しました。コロナ禍にあって現地で育ち現地で働く方々を増やしています。事務局員が現地を訪問しモニタリングをすることはできませんでしたが、奨学生たちの「ものがたり」は会員の皆様への大きな力になっています。「みんなで生きる」や年次報告書に、奨学生が自らの「ものがたり」を語り、これによって奨学生が平和を創り出す役割を果たしました。

協働プロジェクトはケニアでは療育事業、タンザニアでは母子保健をおこないました。ケニアの療育事業支援では短期専門家を送ることはできませんでしたが、新型コロナウイルス感染症対策などをおこないました。タンザニアでは母子保健のデータを収集し、まとめる作業を実施しています。2 事業とも女性と子どもが活躍できる平和な社会を目指しています。現地の団体と協働し、共に成長することができました。カンボジアの SALT プロジェクトは終了後のモニタリング予定でしたが、コロナ禍のため実施することはできませんでした。

JOCS ではワーカー派遣、協働プロジェクト、奨学金の 3 事業をおこなっていますが、特にタンザニアでは 3 事業の連携を深めてきました。2020 年度は雨宮春子ワーカーが現地での活動を本格化させ 3 事業の連携を活性化させる予定でしたが、コロナ禍のため延期になっています。

2019 年度、タイでのスタディツアーは直前に中止となりましたが、2020 年度も実施は困難でした。今後召命を受けたワーカーが現れるための方策を検討する必要があります。

国内では、例年通りの活動はほとんどできませんでした。2020 年に JOCS は 60 周年を迎えましたが、記念事業などはおこなうことができませんでした。また、海外への渡航が制限されており DVD 作成などはできませんでした。

今年度は、「5 カ年計画 2018」の 3 年目でした。「取り残された一人ひとりを捜し、苦悩と喜びを皆で分かち合う」ことを目指して作成したこの計画を実現するよう一步一步進んできました。これからも、共に生きる私たちの活動を一層充実させていくよう、努力してまいります。変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。今年度も、多くのボランティアの皆様が JOCS の活動を支援してくださいました。私たちの活動に共感して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 中期計画における位置づけ

2020年度は5ヵ年計画2018の3年目であった。新型コロナウイルス感染予防のため、多くの活動が中止や延期となり、活動の進捗に一部停滞が見られた。しかし、オンラインによる会合や集会の実施が日常的になる中、地理的に遠くても各種活動に参加できるといふ、支援者とのコミュニケーション方法に新たな可能性も見えてきた。

海外諸活動においては、渡航ができず、予定を変更せざるを得ないことが多くあった。新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見えず、計画も立てにくい状況が2020年度末まで続いた。そのような状況の中でも奨学金事業は着実に活動を進めることができた。奨学生たちはオンライン授業などにより学びを続けていた。また、新たな協力団体からの奨学生も採用された。

5ヵ年計画2018では、会員・寄付金を増やし、財務基盤を安定化させることも目指しており、会員減少を抑え、より多くの支援者を得ることを重要なこととしていた。コロナ禍においても、ありがたいことに多くの支援者が通常通りもしくはいつもにも増して支援を続けてくれた。新規の支援者を得るための活動の一部は、新型コロナウイルス感染予防のために実施できなかったが、雑誌広告などを通してJOCSの働きに共感をして支援者となるケースも増えてきた。

残念なことに、ボランティア活動は一時的に休止せざるを得ず、2020年度中には再開の目途も、立たなかった。

3. 海外諸活動

ワーカーは2名、協働プロジェクトは2件、奨学金では60名を支援した。新型コロナウイルス感染防止のため、現地モニタリング、短期専門家派遣等を中止し、ワーカー1名が緊急帰国した。災害救援復興支援は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための支援要請に積極的に応えた。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュでは、ラルシュコミュニティが新型コロナウイルス感染予防のため自主隔離をするなか、岩本ワーカーはコミュニティリーダーの職責移譲の準備を進めた。タンザニア派遣の雨宮ワーカーはコロナウイルス感染予防のため緊急一時帰国し、リモートで現地を支援すると同時に、帰任に備えてデータ分析や修正計画の策定をした。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー (看護師)

派遣先 : L'Arche Mymensingh (ラルシュ・マイメンシン)

派遣期間：2019年12月～2021年9月

活動概要：知的障がいのある人々とともに生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営されるように人材育成と組織づくりをしている。

2020年度は新型コロナウイルス感染防止のため、事業計画を下記のとおり変更し実施した。



ラルシュ・マイメンシンの仲間たちと岩本ワーカー

1) 背景

新型コロナウイルス感染症拡大のため、バングラデシュ政府は2020年3月26日以降陸海空の国境を封鎖し、全国ロックダウンを指示した。これを受けラルシュの三つの家は、以後8カ月に及ぶ自主隔離に入った。国内経済は打撃を受け、貧困指数は10年前に逆戻りした。

2) 変更内容

ラルシュ・マイメンシンは「みんなで生き残るための分かち合い」をモットーに、事業の柱を「ラルシュに暮らすメンバーたちの命を守る」そして、「地域に暮らすメンバーたちの命を守る」の二点に置いた。これにより事業計画の主内容を、次のように変更した。

- ①自主隔離中の家のメンバーたちが新型コロナウイルスの感染から免れ、心身の健康が守られるよう必要な支援をおこなう。
- ②地域に暮らすラルシュのメンバーたちとその家族、そして社会的に弱い立場にある近隣の友人たちが新型コロナウイルスの感染から免れ、心身の健康が守られるよう必要な支援をおこなう。
- ③新型コロナウイルス感染の恐怖症から家に引きこもった会計士に代わり、必要な会計管理をおこなう。
- ④健全なリーダーシップの移行を図る。

3) 変更後の実施内容

- ①通いのアシスタントたちや電気自動車の運転手等と支援計画を立て、自主隔離中のラルシュの三つの家の食品医薬品日用品等の購入を行った。県警の責任者から特別許可を得て、ロックダウン中もラルシュの電気自動車だけは市内を走行できるようにし、便宜を図った。
- ②スラムに暮らすメンバーたちや路上生活の人たちほぼ30家族を対象に、4月より米、豆、大豆、食用油等の食糧支援をおこなった。毎月2回の支給を継続した。
- ③会計業務を会計士に代わり実施した。長くいた会計士は結局8月に自主退職し、後任を公募したが、一人目の新任は2カ月で離任し二人目が9月に着任した。
- ④コミュニティリーダーの後任のバングラデシュ赴任予定は8月上旬となった。

(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)
St. John Paul II Hospital（聖ヨハネ・パウロ 2 世病院）

派遣期間：2019 年 1 月～2022 年 1 月

活動概要：ママ・ナ・ムトプロジェクト（協働プロジェクト）の活動。TAHO が実施するセミナーとスーパービジョンの支援。

1) タンザニアにおける新型コロナウイルス感染症の状況

タンザニア政府は、4 月 11 日から 5 月 18 日までの期間、空港閉鎖をした。その後、新型コロナウイルスに対する勝利宣言をした。タンザニア政府は、2020 年 5 月初旬の公式発表（感染者数 509 名、死者 21 名）を最後に 2021 年 3 月現在まで情報の更新をしていない。そのため、タンザニアの新型コロナウイルスの感染状況についての実態把握は困難である。しかし、経験則により、コレラ、デング熱、マラリアなどの病気が流行すると、隣国ケニアの感染者数、患者数とおおよそ同等数かそれよりも多い傾向にあると言われている。深刻化する隣国諸国（ケニア、エチオピア、南アフリカ）の感染拡大からも、当地でも油断できない状況が続いている。また、2021 年 1 月 21 日に、在タンザニア日本国大使館は、年明け以降再び感染拡大が進行しているとの見方が強まっているとの注意喚起をした。

2) 変更計画内容

新型コロナウイルス感染の世界的拡大により、日本の外務省がアフリカ在住の邦人に対する避難勧告を発出したことを受け、雨宮ワーカーが日本に緊急帰国（2020 年 4 月 1 日に日本到着）したことにより、当初計画は大幅に変更となった。

①ママ・ナ・ムトプロジェクト

- ・TAHO 傘下にある、周産期を取り扱っている 8 つの保健医療施設のプロジェクトに関する基礎調査のデータ収集と分析。
- ・基礎調査分析結果から、問題課題を抽出して活動詳細と計画策定。
- ・医療従事者に対する新生児蘇生法講習と分娩監視装置（妊娠中と分娩中の母体子宮収縮と胎児心拍数を観察する器械）のモニター判読の為の研修に使用する教材作成。

②TAHO での活動

- ・TAHO が開催するセミナーの準備の支援。

③その他

- ・タボラの教会と施設で利用できる新型コロナウイルス感染予防対策マニュアル作成。

3) 実績

①ママ・ナ・ムトプロジェクト

- ・TAHO 傘下にある、周産期を取り扱っている 8 つの保健医療施設のプロジェクトに関する基礎調査のデータ収集と分析をおこなった。
- ・基礎調査分析結果から、問題課題を抽出して活動詳細と計画策定をおこなった。

- ・医療従事者に対する新生児蘇生法講習と分娩監視装置（妊娠中と分娩中の母体子宮収縮と胎児心拍数を観察する器械）のモニター判読のための研修に使用する教材作成をおこなった。

② TAHO での活動

- ・TAHO が開催したセミナー「栄養失調児の管理」の準備の支援を遠隔でおこなった。

③その他

- ・タボラの教会と施設で利用できる、新型コロナウイルス感染予防対策マニュアルを作成し現地に提供した。
- ・天使大学（北海道札幌市）の助産師国際医療専攻科の学生に対する講義、JOCS 保健医療勉強会（オンライン）、大阪 JOCS カフェ（オンライン）にてタンザニアでの活動報告をおこなった。

4) 特記事項

雨宮ワーカーは北海道での新型コロナウイルスの第2波が到来した5月、クラスターが発生した札幌市北区の介護老人保健施設に看護師として緊急支援に入った。（2020年5月6日から7月31日）

また、北海道での新型コロナウイルスの第3波が到来した11月、クラスターが発生した札幌市南区の特別養護老人ホームにも看護師として緊急支援に入った。（2020年11月17日から12月10日）

（3）短期

2020年度は短期ワーカーの派遣はなかった。

[3-2] 奨学金事業

2020年度はインド、インドネシア、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニア計8カ国の60名を支援した。新型コロナウイルス感染予防のため、モニタリングの実施は見合わせた。2021年度の新規募集に備えて協力団体の見直しをおこなった。

（1）インド

2019年度に採用したCFHの医学生および看護師の2名は、インド政府の個人宛の海外送金規制のため、CFHの申し出により、2020年度の奨学金支給を停止した。

CFHによると、2名は残り1年の学びを継続している。

（2）インドネシア

故田村久弥元ワーカーや故塚本香代美元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先であったGKST、ICAHS傘下にある保健医療施設で働く13名を支援した。

インドネシアでは、看護師長は看護修士を取得することが義務付けられるなど、配置すべきスタッフの人数や資格の基準が保健医療施設の規模に応じて細かく規定されており、

それが順守されているかどうか、政府が厳しくチェックをしている。順守できない場合は、政府から保健医療施設としての認定を受けることができなくなることもある。そのため、近年各保健医療施設からはその基準を満たすための研修を希望する申請が続いており、2020年度も上級レベルの看護資格取得の要請に応えた。

また、GKST シナルカシ病院のようなキリスト教系の私立病院は医師の雇用が難しいため、当病院で将来も働くことを希望している人材を医師として育成する必要がある。しかし、病院全体が人材不足の中で、現在勤務している職員を医科大学に進学させることは難しい。2020年度はGKST シナルカシ病院からの要請に応え、GKST 所属の医学生を奨学金支援の選考対象に加えた。また採用された奨学生に対して、定期的にモニタリングを実施することとした。

(3) カンボジア

新たな協力団体となった、カトリックプノンペン司教区の CCHC (Catholic Community Health Services) に所属する医師 1 名の病院管理学修士号の取得を支援した。この奨学生は、近い将来に設立が予定されている、プノンペン司教区の病院の管理者としての活躍が期待されている。

(4) ネパール

故岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、TLMN アナンダバン病院、UMN とこれらの組織の傘下にある病院で働く保健医療従事者及び職員 9 名を支援した。しかし新型コロナウイルス感染症拡大により、ネパール政府が 2020 年度の入学試験を延期したり、実施が未定であったりするため、2019 年度採用の 2 名及び 2020 年度採用の 7 名は研修を開始できていない。また 2020 年度採用の 1 名は研修を開始しているものの、奨学金支援に必要な学校発行の書類を入手できず、契約に至っていない。

医療へのアクセスが難しい山間部にある保健医療施設では、看護・助産や臨床検査、理学療法、放射線技師などの分野で准看護・助産師または助手として働いている職員に対し、上級資格及び専門的な資格取得の支援をした。また、定年退職を迎える管理職の後任育成のニーズの応えるため、管理職として必須である修士号取得のための支援をした。

(5) バングラデシュ

乾眞理子元短期ワーカー（医師）の派遣先であるカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト（通称カイラクリ・クリニック）からは 2017 年度以来、毎年 1 名ずつ医療助手（3 年間）の応募があり採用してきた。2020 年度は 4 名を奨学金で支援した。カイラクリ・クリニックでは創立者のベーカー医師亡き後、ベーカー医師から技術を学んだ村人らが医療サービスを担ってきたが、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のために有資格者が必要となっている。このため医長代行者、モニタリング担当者そして今年度は新たに助産師の資格を持つスタッフが採用され、奨学金を活用し、仕事を続けながら資格取得を目指している。

(6) ウガンダ

2つの協力団体、UPMBと南ルウェンゾリ教区を通じて、8名を支援した。

2020年度に3名が研修を終えた。いずれもUPMB傘下のコンゴ民主共和国との国境付近にある病院に勤務するスタッフで、助産師、看護師の資格を取得した。

2020年度はUPMB傘下でウガンダの南西部の病院、南ルウェンゾリ地区の僻地医療を担う病院から奨学生を採用した。* UPMBはウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステの3教派が連携し、302の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織。

(7) ケニア

協働プロジェクトの協力団体であるシロアムの園の理学療法スタッフを支援した。週末のパートタイムコースで3年間かけて理学療法学士を取得する予定である。

(8) タンザニア

TAHO傘下にある保健医療施設で働く22名を支援した。うち2019年度採用の1名は新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、進級が難しくなり中退したため、最終的に奨学金を辞退した（一覧には不掲載）。

雨宮春子ワーカーの派遣先である聖ヨハネ・パウロ2世病院の職員、及び転職することなく長期的、継続的に働く可能性の高い神父やシスターである保健医療従事者及び職員を優先的に支援した。TAHO傘下の保健医療施設には、基本的な短期研修を受けただけで、公的資格を持たずに医療助手として働いている職員が多い。また、全保健医療施設のどの職種においても政府が定める職員数に足りていない。そのため優先度の高い医師、正看護師・助産師、薬剤師の資格取得を目指す職員と将来的に病院管理業務を担う職員への支援を優先的におこなった。

略語一覧

- * CFH : (Christian Fellowship Hospital : クリスチャンフェローシップ病院)
- * GKST (Geredja Kristen Sulawesi Tengah : 中部スラウェシキリスト教会)
- * ICAHS (Indonesia Christian Association of Health Service : インドネシア・キリスト教保健サービス協会)
- * HDCS (Human Development and Community Service : ネパール・キリスト教系 NGO)
- * TLMN (The Leprosy Mission Nepal : ネパール・ハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO)
- * UMN (United Mission to Nepal : ネパール合同ミッション。キリスト教系国際 NGO)
- * UPMB (Uganda Protestant Medical Bureau : ウガンダ・プロテスタント医療連盟)
- * TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

2020年度奨学生一覧

インド (2名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
学生	23	女	Christian Fellowship Hospital	医学	2019年08月 ~ 2021年02月
准看護師	25	女	Christian Fellowship Hospital	看護学	2019年09月 ~ 2021年09月

インドネシア (13名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
会計スタッフ	28	女	GKST Sinar Kasih Hospital	会計	2016年06月 ~ 2020年10月
データ管理、医療記録担当者	22	男	GKST Sinar Kasih Hospital	診療記録	2018年07月 ~ 2021年06月
看護師長	39	女	GKST Sinar Kasih Hospital	公衆衛生(修士)	2019年07月 ~ 2021年07月
看護師	39	女	ICAHS Estomihi Hospital	看護学	2019年09月 ~ 2022年03月
看護師	43	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020年07月 ~ 2022年06月
看護師	41	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020年07月 ~ 2022年06月
病院ボランティア	19	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年07月 ~ 2025年07月
医療助手	24	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2020年07月 ~ 2023年06月
病院ボランティア	19	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月 ~ 2025年07月
病院ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月 ~ 2024年07月
病院ボランティア	19	男	GKST Sinar Kasih Hospital	看護麻酔学	2020年08月 ~ 2023年08月
病院ボランティア	18	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月 ~ 2025年08月
看護師・公衆衛生事業責任者	43	男	ICHAS Lende Moripa Christian Hospital	看護学	2020年09月 ~ 2023年09月

カンボジア (1名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医師	36	男	Catholic Community Health Services	病院管理学(修士)	2020年12月 ~ 2022年12月

ネパール (9名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
理学療法士助手	33	女	TLMN Anandaban Hospital	理学療法学	2016年08月 ~ 2021年07月
医師	43	男	TLMN Anandaban Hospital	医学	2017年04月 ~ 2020年07月

2020年度奨学生一覧

看護師・助産専門技能者	35	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学・公衆衛生	2017年09月 ~ 2020年09月
看護師	26	男	UMN Okhaldhunga Hospital	看護学	2018年08月 ~ 2022年07月
看護講師助手	33	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2018年10月 ~ 2021年10月
医師	35	女	United Mission Hospital Tansen	病理学	2019年06月 ~ 2022年06月
准看護・助産師	32	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学	2019年09月 ~ 2022年08月
歯科助手兼准看護・助産師	25	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	歯学	2019年11月 ~ 2022年10月
補助看護助産師	30	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2020年06月 ~ 2022年06月

バングラデシュ (4名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
パラメディック	28	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2018年01月 ~ 2020年12月
医長代行	35	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2019年01月 ~ 2021年12月
モニタリング担当者	42	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2020年01月 ~ 2022年12月
パラメディック	34	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2021年01月 ~ 2023年12月

ウガンダ (8名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
看護助手	34	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2017年11月 ~ 2020年05月
准医師	41	男	UPMB South Rwenzori Diocese /Kinyamaseke HCIII	公衆衛生	2018年08月 ~ 2021年09月
准助産師	25	女	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2019年07月 ~ 2020年12月
准看護師	28	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年07月 ~ 2020年12月
看護助手	35	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年12月 ~ 2022年06月
准看護師	28	女	UPMB Rugarama Hospital	薬学	2020年05月 ~ 2023年05月
准看護師	31	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	看護学	2020年07月 ~ 2021年12月
医師	28	男	UPMB/ Ruharo Mission Hospital	産婦人科学(修士)	2021年02月 ~ 2023年05月

ケニア (1名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
理学療法士	28	男	The Garden of Siloam	理学療法学	2018年09月 ~ 2021年09月

タンザニア (22名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医療助手	26	男	St. John Paul II Hospital	薬学	2017年09月 ~ 2021年09月
シスター、病院管理責任者	43	女	Ndala Hospital	病院管理学	2017年10月 ~ 2022年10月
シスター、医師補	37	女	Ndala Hospital	医学	2018年08月 ~ 2023年08月
医療助手	33	女	St. John Paul II Hospital	薬学	2018年09月 ~ 2021年08月
シスター、医師補	44	女	AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月 ~ 2023年10月
医療助手	22	男	Mwanzugi Dispensary	医学	2019年09月 ~ 2023年09月
医療助手	20	男	Mwanzugi Dispensary	薬学	2019年09月 ~ 2022年09月
医療助手	25	男	St. John Paul II Hospital	医学	2019年10月 ~ 2022年10月
医療助手	24	男	St. John Paul II Hospital	看護学	2019年10月 ~ 2022年10月
准看護・助産師	29	男	St. John Paul II Hospital	看護学・助産学	2019年10月 ~ 2020年09月
カルテ管理助手	27	男	St. John Paul II Hospital	データ管理	2019年10月 ~ 2022年06月
事務	34	女	Mwanzugi Dispensary	看護学・助産学	2019年11月 ~ 2022年11月
看護師	26	男	St. John Paul II Hospital	看護麻酔学	2020年01月 ~ 2020年12月
病院管理、司祭	30	男	St. John Paul II Hospital	病院管理学	2020年11月 ~ 2023年11月
病院管理、司祭	35	男	Ndala Hospital	薬学	2020年11月 ~ 2023年11月
准看護師	28	男	St. Ann's Mission Hospital	看護学	2020年11月 ~ 2021年11月
准看護師	26	男	St. Ann's Mission Hospital	看護学・助産学	2020年11月 ~ 2021年11月
医師補	27	男	St. John Paul II Hospital	医学	2020年11月 ~ 2025年11月
医療助手	21	男	St. John Paul II Hospital	臨床工学	2020年11月 ~ 2023年10月
医療助手	23	女	Ndala Hospital	看護学	2020年11月 ~ 2023年11月
医療助手	30	女	St. John Paul II Hospital	医学	2020年11月 ~ 2025年11月
医療助手	29	女	St. John Paul II Hospital	看護学・助産学	2020年11月 ~ 2023年10月

* 職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

* 掲載は契約ベース。研修がまだ開始していないなどの理由で契約をまた締結していない奨学生は掲載していない。

[3-3] 協働プロジェクト(プロジェクト・りとる)

(Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

カンボジアの SALT プロジェクトの事後評価と、ケニアのシロアムプロジェクトの終了時評価は、新型コロナウイルス感染予防のため渡航ができず実施しなかった。タンザニアのママ・ナ・ムトプロジェクトは雨宮ワーカーが新型コロナウイルス感染予防のため緊急一時帰国している間に、基礎調査で得られたデータを分析するとともに、一度策定した詳細計画の修正作業をした。

(1) SALT (Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey : 次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国 : カンボジア
活動地域 : バッタバン州
プロジェクト期間 : 2014年10月1日～2019年9月30日
協力団体 : バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者 : バッタバン州内の16小学校および8中学校の高学年生
プロジェクト目標 : 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

2019年9月に終了した当プロジェクトは、プロジェクトで作成された教材を使い、カリキュラムに沿って健康教育と思春期教育を多数の学校で実施していた。そしてプロジェクト終了後もヘルスセンターの活動として継続的に実施される予定であった。その実施状況を確認し、今後の協働プロジェクトへ活かす目的で、事後評価を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため2020年度の実施は中止した。

(2) シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンブ地方行政区 (County) インデンデル地区
プロジェクト期間 : 2016年4月1日～2021年3月31日 (5年間)
協力団体 : コイノニアミニストリー シロアムの園
受益者 : シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい(重複障がいが多い)のある子どもおよびその家族
プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

進捗状況 :

2020年度は5年の協働プロジェクト期間の最終年度だったが、新型コロナウイルス感染防止のため、予定していた通常モニタリングおよび終了時評価、理学療法士の山内章子元ワーカー、作業療法士の松本政悦氏の短期専門家派遣を見送った。

シロアムの園では新型コロナウイルスに関わる政府の規制を受け、2020年3月の1学

期の終了時期を1週間前倒しした。4月中旬から始まる2学期の通常療育も一時休止とした。4月には通所する子どもたちへの家庭訪問を始め、収入が激減した家族へ食料や石けん、マスクなどを配布した。家庭では子どもを適切にケアできていない事例が見られたため、5月中旬から1日4人程度の療育を再開し、11月からは1日10人に制限して、屋内と屋外の2クラスに分けて活動した。

コロナ禍では、少人数療育のため、食事、洗濯やクラスの補助をするアシスタントスタッフ5名が普段よりも余裕をもって子どもたちと接し、子どもがどのような状態が一番良いか、どのような接し方が良いかを学ぶ機会にも恵まれ、スタッフ全体のサービスの質が向上した。子どもの個別療育計画の見直しもおこなった。

シロアムの園は増加する子どもたちの必要に応えるため移転を決定し、2019年度に新しい土地を購入し、2020年度は建築許可等の手続きを進めた。

プロジェクト最終年度に実施予定であった活動の一部が、コロナ禍により実施できなかったため、プロジェクト期間を1年延長し、2022年3月31日までとすることとした。

(3) ママ・ナ・ムトプロジェクト

対象国 : タンザニア
活動地域 : タボラ州 タボラ大司教区
プロジェクト期間 : 2018年4月～2023年3月(5年間)
協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
受益者 : TAHOとその傘下の9の保健医療施設(病院や診療所など)
プロジェクト目標 : TAHO傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

進捗状況 :

聖ヨハネ・パウロ2世病院でパイロットプロジェクトとして、保健医療従事者に対する母子保健に関するトレーニングや母親対象の健康教室を計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大を受け、日本の外務省がアフリカ滞在の邦人に帰国勧告を発出したため、タンザニアに派遣されていた雨宮春子ワーカーは4月に急遽帰国をすることとなった。そのためそれらの活動は一旦休止せざるを得なかった。

しかし、TAHOが中心となって8月に栄養失調児の管理セミナーを実施した。セミナーは各会場2日間の日程で、栄養失調患者の診断や治療法に関する講義と、栄養補給剤の作り方をワークショップ形式でおこなった。また設備や資材に限界のある保健医療施設のために、施設間で情報の共有、協力、連携を取り、治療のできる施設にリファーする体制を整備することとなった。このセミナー後のスーパービジョン(巡回指導)で各施設の栄養失調児管理の現状を評価し、課題を明確にした。今後更に職員の知識を向上させるとともに、栄養の重要性に対する意識を高め、自主的な栄養教室の実施、早期の栄養失調状態の診断と治療、保健医療施設間の相互連携体制の確立を目指している。

2021年度の活動再開を見込み、パイロットプロジェクトを実施する聖ヨハネ・パウロ

2 世病院の妊娠・分娩・産褥部門のデータ収集及び分析をおこない、活動計画及びスケジュールを策定した。

2020 年度は 4 回のスーパービジョンを以下のテーマで実施した。

4 月：新型コロナウイルス感染予防対策と各施設の設備調査

9 月：母子保健サービスと母子感染予防

12 月：急性栄養失調管理

2021 年 1 月：感染症の予防と管理（マラリア）

また、前述の栄養失調児管理セミナーに加え、8 月に州医務官を講師として各保健医療施設で新型コロナウイルス感染症対策セミナーが実施された。内容は、保健医療従事者の個人防護具等の使用方法、感染患者対応及び感染防止策を学ぶものであった。10 月のセミナーでは、タンザニア保健省の新しい母子感染予防プログラムのガイドラインをテーマとし、それぞれの保健医療施設の母子感染予防の現状とガイドラインとのギャップを認識させ、母子保健サービスにおける医療ケアとデータ管理を学ぶことを目的としておこなわれた。3 日間のセミナーには准医師、正・准看護師、医療助手の計 23 名が参加した。参加者は、主に母子感染予防に関するガイドラインの変更箇所の確認をしたうえで、習得した新しい知識と技術を各保健医療施設にフィードバックする。

[3 - 4] 災害救援復興支援

2020 年度は、コロナウイルス感染予防のための支援要請に応じて、災害救援復興支援をインドネシア、ネパール、バングラデシュ、ケニア、タンザニア、タイの 6 カ国に対しておこなった。

(1) インドネシア

6 月に GKST シナルカシ病院からの新型コロナウイルス感染症拡大予防活動に対する資金支援要請に応え、35,000,000 インドネシアルピア（約 28 万円）を支援した。主に医療従事者の個人防護具の購入と感染者のための隔離施設の設置にかかる費用に充てられた。GKST シナルカシ病院のあるテンテナ地区は、8 月に感染者が減少し、地域の感染リスクのレベルを最も低いグリーンゾーンとして評価されていた。しかし 2021 年 1 月に入り、テンテナ地区の感染者数が急増、病院敷地内での診療により病院職員に感染、一時的に救急と入院病棟を閉鎖せざるを得ない状況となった。さらなる病院職員への感染を防ぐため、迅速に感染結果を診断できる「抗原検査」キット購入の追加支援要請を受け、理事会での協議を経て、3,225 米ドル（約 34 万円）を追加で支援した。2021 年 2 月現在、職員の間隔離期間を経て、患者の受入を再開した。

* GKST (Geredja Kristen Sulawesi Tengah : 中部スラウェシキリスト教会)

(2) ネパール

1) TLMN アナンダバン病院

7 月に TLMN アナンダバン病院からの新型コロナウイルス感染症拡大予防活動に対す

る資金支援要請を受け、理事会での協議を経て、500,000 ネパールルピー（約 45 万円）を支援した。主に医療従事者の個人防護具、感染防止対策用物資、治療薬および医療機器の購入に充てられた。

2) UMN タンセン病院

7月にUMN傘下のタンセン病院より新型コロナウイルス感染患者への緊急医療活動に対する支援要請を受け、理事会での協議を経て、7,500米ドル（約80万円）を支援した。UMNは新型コロナウイルス陽性患者の治療のための医療機器を購入した。

3) UMN オカルドウンガ病院

7月にUMN傘下のオカルドウンガコミュニティ病院より新型コロナウイルス感染患者への緊急医療活動に対する支援要請を受け、理事会での協議を経て、2,350米ドル（約25万円）を支援した。UMNは、新型コロナウイルス陽性と診断された妊婦の分娩時に使用する医療機器を購入した。

(3) バングラデシュ

JOCSの奨学生がいるカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト（通称カイラクリ・クリニック）では、新型コロナウイルス感染症拡大による移動制限措置のため、首都ダッカにある糖尿病専門病院からの物品調達や、緊急手術のための患者搬送が難しい状況にあった。また感染拡大に伴い物価が高騰しており、活動資金の不足に直面していた。カイラクリ・クリニックの支援要請を受け、2,288米ドル（約25万円）を支援した。JOCSの災害救援復興支援により、カイラクリ・クリニックでは、マスク、消毒液、医薬品の購入に加え、地域住民が新型コロナウイルスを予防するための啓発活動を実施、また患者搬送のための救急車を借用した。

(4) ケニア

7月にシロアムの園から新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急活動に対する資金支援要請を受け、理事会の協議を経て500,000ケニアシリング（約49万円）を支援した。資金は8月から12月まで、家庭訪問による食料・日用品の支援、無料訪問サービス（訪問リハビリテーション、カウンセリング、往診）、無料少人数療育・デイケア、電話相談に充てられた。

(5) タンザニア

2020年8月にタンザニア・TAHO（Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所）からの新型コロナウイルス感染対策のための資金支援要請に応え、6,505,500タンザニアシリング（約30万円）を支援した。主に医療従事者の個人防護具の購入費用に充てられた。TAHOは、支援決定後直ちに新型コロナウイルス感染症セミナーを実施し、各施設への資材配布と使用法説明をした。

タンザニアは早くから行動制限を解除していたが、2020年12月頃からTAHOのあるタボラでも新型コロナウイルスを疑う症状を抱える患者が急増し、感染拡大が懸念されてい

た。早急な感染予防対策が必須であるにも関わらず、いずれの施設でも感染予防の資材が不足している。2021年3月には、第2波に対処するため、医療従事者を感染から守るための資材購入の追加支援要請を受け、6,480,000タンザニアシリング（約30万円）を追加で支援した。

(6) タイ

2021年3月にタイのWTIND（Where There Is No Doctor）より新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた活動地における資金の緊急支援要請に応え、2,000米ドル（約22万円）を支出した。主に活動地の村人（主に子ども）のいのちを守るため、診療に必要な医薬品や食料等の購入費用に充てられた。

* WTIND（Where There Is No Doctor：タイ北部山岳地域・医師のいない村で社会活動をおこなうNPO団体）

4. 国内諸活動

新規ワーカーの発掘育成が目的であるスタディーツアーとフィールドセミナーは、新型コロナウイルス感染予防のため実施しなかった。保健医療勉強会については、オンラインで実施した。教会訪問は対面での実施ができなため、1件のオンラインによる実施にとどまった。キリスト教書店での広報、雑誌広報は2020年度も注力した。

新型コロナウイルス感染予防のためにJOCS主催のイベントは中止し、事務局でのボランティア活動を休止したため、使用済み切手運動をはじめ、多くの国内諸活動が大幅に縮小した。オンラインで実施できるものについてはオンラインで実施した。

[4-1] 国際保健人材育成

将来国際保健医療協力の分野で活動を目指す保健医療系の学生や、現職の保健医療従事者向けに、国際保健医療勉強会3回をオンラインで実施した。フィールドセミナーとタンザニアで予定していたスタディーツアーは新型コロナウイルス感染予防のため実施しなかった。

(1) 国際保健医療協力勉強会

JOCSのワーカー志願者を念頭に、将来的に国際保健医療協力の分野に携わることを希望する人に学びの機会を提供するため、2020年度は計3回の勉強会を開催した。後半2回は「母子保健」の活動を軸に、現ワーカーの派遣に至る歩みと元ワーカーの帰国後の歩みを紹介することで「国際保健におけるキャリア」について考える機会を提供した。新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインにて開催し、海外を含め全国各地から参加があった。勉強会終了後は、ワーカー志願者に対して森田隆事務局長が派遣希望者説明会もおこなった。

第1回 国際協力とプロジェクトマネジメント

日時：2020年9月26日（土）15:30～17:00（17:00～17:30 派遣希望者相談会）

参加者：合計15名（女性13名、男性2名） ＊うち会員3名

【内訳】医師2、看護師・保健師2、作業療法士1、助産師1、薬剤師2、大学教授1、
会社員2、学生2、不明2

講師：森田隆（JOCS 事務局長）

内容：JOCSの基本方針と事業概要を紹介した上で、外部者として開発に携わるにあたり念頭に置くべき、開発ステージ（タイミング）と介入内容の相関性、技術移転とサービスデリバリーの違い、プロジェクトの概念とマネジメント手法・運営上の留意点などを説明した。いずれの参加者もこれまでプロジェクトマネジメントを学ぶ機会がなかったため、事例を交えたプロジェクトマネジメントの紹介に満足度は高かった。

第2回 「母と子のいのちと向き合って」現ワーカーのあゆみ

日時：2020年11月28日（土）15:30～17:15（17:15～17:45 派遣希望者相談会）

参加者：合計22名（女性19名、男性3名） ＊うち会員5名

【内訳】医師2、看護師・保健師4、作業療法士1、助産師4、薬剤師1、大学職員1、
保育士1、栄養士1、運転手1、不明6

講師：雨宮春子ワーカー（助産師 タンザニア派遣 2019～現在）

内容：雨宮ワーカーが国際協力を志し、JOCSのワーカーとして導かれた経緯を紹介した上で、ママ・ナ・ムトプロジェクトでの基礎調査結果で判明した課題及び、栄養失調児の症例を通じて開始された現地での栄養改善活動を説明した。また一つひとつのいのちと向き合うにあたり雨宮ワーカーが指針としている「死をおもてなしする心」を紹介した。参加者は専門知識とともに、統計を用いて課題を判明する支援の姿勢について多くの示唆を得た様子が見られた。

第3回 「母と子のいのちと向き合って」ワーカー後のあゆみ

日時：2021年2月5日（金）18:00～19:30（19:30～20:10 派遣希望者相談会）

参加者：合計14名（女性12名、男性2名） ＊うち会員4名

【内訳】看護師3名、助産師3名、保健師1名、臨床検査技師1名、大学教員1名、
高校教員1名、保育士1名、学生2名、回答無1名

講師：柳澤理子氏（愛知県立大学看護学部教授、

JOCSカンボジア派遣 1989～1995）

内容：カンボジアでの母子保健活動と結核対策について、歴史的背景や保健医療事情を含めて説明した。ワーカー後の歩みとして、大学教員としての道に進み、カンボジアやタイでのフィールド調査内容や、研究を通じて現地とのつながりが継続されていること、JOCSとの関わり方について共有した。多くの写真を用いて患者

一人一人の背景まで含めた説明から、参加者は現地での具体的な活動について理解を深め、国際保健のキャリアを長期的に考える好機となった。

(2) フィールドセミナー

新型コロナウイルス感染防止のため、実施を見送った。

(3) スタディツアー

将来、国際保健医療協力の分野で活躍する人材を育成するプログラムとして、タンザニアでのスタディツアーを計画していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、実施を見送った。雨宮春子ワーカーの派遣先であり、また協働プロジェクト「ママ・ナ・ムトトプロジェクト」を実施している TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所) や聖ヨハネ・パウロ 2 世病院を訪問する予定であった。

[4 - 2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

使用済み切手運動や講師派遣、事務局訪問受け入れを通して、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知をし、また地区 JOCS や関西バザーへの活動支援によって、国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会を作る予定であったが、2020 年度は新型コロナウイルス感染予防のため、多くの活動が中止もしくは延期を余儀なくされた。

(1) 使用済み切手運動

新型コロナウイルス感染防止のため、2020 年 4 月から 2021 年 3 月まで、切手等整理のためのボランティア活動を休止した。それに伴い、使用済み切手収集、書き損じハガキ、外国コインの収集も休止とした。

1) 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウ 2020 2020 年 7 月 31 日 (都立産業貿易センター台東館)

JOCS は、新型コロナウイルス感染防止のため参加を見送った。

スタンプショウヒロシマ 2020

開催中止

2) 書き損じハガキキャンペーンの実施

2020 年 4 月から 2021 年 3 月まで切手等整理のためのボランティア活動を休止したため、書き損じハガキキャンペーンを実施しなかった。

3) 送料負担キャンペーン

2020 年 4 月から 2021 年 3 月まで切手等整理のためのボランティア活動を休止したため、送料負担キャンペーンを実施しなかった。

(2) 地区 JOCS 活動支援

2020 年度中に計画されていた地区 JOCS の主な活動は、以下のとおり。

仙台 JOCS		参加者数
毎月第2 土曜日	使用済み切手整理作業「きってきっぺ」（仙台市市民活動サポートセンター）	
	※新型コロナウイルス感染症拡大のため、2021年3月まで活動休止	
足利 JOCS		
12月12日	足利市民クリスマス（足利市民プラザ小ホール）	30名
	12/21～24 ケーブルテレビ（わたらせテレビ）にて放映	
町田 JOCS		
毎月第3 水曜日	使用済み切手整理作業（メディカルホームグラニー玉川学園）	-
	※新型コロナウイルス感染症拡大のため、同会場での活動は休止	
	2020年9～11月は、介護家族を地域で支える会「わあくす」事務所（玉川学園）にて活動	
京都 JOCS		
4月11日	第16回京都 JOCS チャリティーウォークソン（京都鴨川河川敷）	
	※新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、実施を見送り	
7/26 → 9/27	第42回京都 JOCS チャリティーコンサート みんなで楽しむクラシックコンサート（京都府立府民ホール アルティ）	206名
	※新型コロナウイルス感染症拡大のため、日程を延期し、感染対策を十全に行った上、人数制限をして開催	
大阪 JOCS		
12月19日	大阪 JOCS オンラインカフェ（Zoomにて）	17名
	雨宮春子タンザニア派遣ワーカーのお話	
神戸 JOCS		
7月11日	神戸 JOCS のつどい 40周年記念 スペシャルコンサート（日本キリスト改革派 神港教会）	
	※新型コロナウイルス感染症拡大のため、無期延期	

芦屋 JOCS	
	委員会を開催し、新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020年度の活動の休止を決定
四国高知 JOCS	
	設立 25 周年を記念して、イベントの開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、イベント企画を中止し、委員会のみ開催

(3) 関西 JOCS バザー

ボランティアによる毎年恒例の関西 JOCS バザーが、2020年5月9日（土）に大阪聖パウロ教会にて開催の予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、一旦10月24日（土）に延期となった。しかし10月になっても、感染拡大が収まらなかったため、2020年度の開催は中止となった。

(4) 講師派遣プログラム

JOCSの活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。新型コロナウイルス感染拡大により、例年よりも依頼数が少なかったが、以下の諸団体（11団体）に、感染防止の対策を確認した上で、講師を派遣した。また、録音や録画データの送付を通して対応をした団体が2団体あった。

派遣時期	派遣場所
6月	大阪保育福祉専門学校
9月	天神橋筋ライオンズクラブ
10月	女子学院中学校
11月	フェリス女学院中学・高等学校 恵泉女学園中学校 戸山教会付属戸山幼稚園 天使大学 千葉英和高等学校
12月	マロニエ医療福祉専門学校（3回） 同仁美登里幼稚園
2021年2月	成増高等看護学校（3回）
録音・録画 データ送付	女子聖学院 浦和ルーテル学院小中高等学校

(5) 事務局訪問受入

通常は JOCS の活動内容や、使用済み切手運動について、学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問を受け入れているが、2020 年度は新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れをおこなわなかった。

(6) 視聴覚資料

希望者に、DVD、写真パネルの貸し出しをおこなった。

2020 年度は、4 件の貸し出し依頼があった。

なお、視聴覚資料は、JOCS の活動を報告する機会にも活用されており、2020 年度は、「アサンテ サーナ (Asante Sana) タンザニアにまかれた種」、創立 50 周年記念「カシナマ ジュパン」「心をひらいて」2 枚 1 セットを地区 JOCS や JOCS の活動に賛同する幼稚園に貸し出し、上映された。

【資料内容】

・現地写真パネルセット

・活動紹介 DVD

「JOCS 活動紹介 (2019.5 版)」

「アサンテ サーナ (Asante Sana) タンザニアにまかれた種」

創立 50 周年記念「カシナマ ジュパン」「心をひらいて」2 枚 1 セット

「エイズと向き合う」

「使用済み切手でアジアに医療協力を」改訂版

「クメールの人々と共にーカンボジアの農村からー」

「日本のお友達へ」

「アジアの呼び声に応じて」

「オカルドウンガ診療所にて」

「はるかなるネパールの村へ」

(7) 関西事務局オープンサタデー

平日のボランティア活動への参加が難しい方向けに、毎月第 4 土曜日に関西事務局を開け、同日午後、気軽な勉強会を大阪 JOCS の協力を得て開催してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、無期延期となった。

(8) 国際協力イベント参加

1) グローバルフェスタ JAPAN2020

新型コロナウイルス感染防止のため、開催は中止となった。

2) ワン・ワールド・フェスティバル for Youth

新型コロナウイルス感染防止のためオンラインでの開催となったが、2020 年度は参加

を見送った。

(9) ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」に加入している。JANIC では、2 つのワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」に参加しているが、2020 年度はコロナウイルス感染防止のため、オンライン会議にて情報及び経験の共有をした。

カンボジア市民フォーラムでは、森田隆事務局長が 2019 年度から共同代表の任務をおこなっている。JANNET では、2019 年度までと同様に事務局スタッフが監事として運営に携わった。

「NGO 非戦ネット」(非戦の平和、共生を目指す NGO の緩やかなネットワーク)と「『新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！』連絡会」の活動に賛同して呼びかけ人を務めた。

(10) 創立 60 周年記念事業準備

創立 60 周年を迎えた 2020 年度に、記念事業として、活動紹介 DVD の作成、記念集会の開催、啓発のための絵本の作成、全国での活動報告会を実施することを計画していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、中止や延期とした。

活動紹介 DVD は海外への渡航、撮影ができないため、2022 年度に延期した。啓発のための絵本は 2021 年度に作成することとした。全国での活動報告会は、60 周年記念事業としてではなく、通常のマーケティング活動としてオンラインも活用して実施した。また、記念集会は中止としたが、機関誌「みんなで生きる」6・7月号に「60 周年の感謝の祈り」を掲載した。

[4-3] マーケティング

2020 年度も会報誌「みんなで生きる」の子ども号として、将来の支援者の育成にもつながる子ども向けの絵本を発行した。また 2019 年度に引き続き、キリスト教書店での広報活動、奨学生の具体的なエピソードを使うなど工夫を凝らした雑誌広告など、支援者の増強のための活動を実施した。対面での書店での広報活動や教会訪問は新型コロナウイルス感染予防のため実施できなかったが、オンラインで実施できるものは工夫しておこなうようにした。

(1) 会報誌『みんなで生きる』

発行回数：年 7 回 (偶数月 10 日、11 月 10 日発行)

発行部数：通常号 : 6,000 部

6・7月号 (簡易版) : 12,000 部

子ども号 : 7,000 部

- 体裁 : A 4版。4ページ (6・7月号)、8ページ (8・9月号、10・11月号、2・3月号)、12ページ (12・1月号)、16ページ (4・5月号)。子ども号はA5版、20ページ。
- 送付先 : 会員と年額1万円以上の寄付者等。ただし6・7月号は年次報告書とともに全支援者に送付した。
- 特集記事 : 4・5月号 地域の人々に健康を届ける
 ータンザニア・タボラ州での活動
 6・7月号 (簡易版のため特集記事はなし)
 8・9月号 第59回 JOCS 定時社員総会報告／JOCS の活動地の現状
 10・11月号【新型コロナウイルス感染症対策】インドネシアへの緊急支援報告
 12・1月号 JOCSにつながる人たちからのクリスマスメッセージ
 2・3月号【新型コロナウイルス感染症対策】インドネシアへの緊急支援報告
- その他、会長による巻頭言、ワーカーからの手紙、奨学金事業の報告、地区 JOCS からの報告、新入会者報告、国内活動の案内や報告を掲載した。
- 子ども号は、岩本ワーカーの活動にテーマを得て、「サルマがないた」というタイトルの絵本を作成した。
- 評価活動 : 毎号、都道府県順に100人の会員を抽出し、往復はがきでアンケートを送付した。毎回30通前後の回答を得た。得た回答は誌面づくりに役立てた。また随時会員の声として誌面で紹介した。
- 編集・校正ボランティア : 編集にあたっては、以下のボランティアメンバーに協力をいただいた。柏木牧子氏 (イラスト)、岸川瞳氏、古中大輔氏、那須野幸子氏、新井ななえ氏、加藤睦氏、平本実氏、山崎理恵氏 (以上、子ども号)



(2) 年次報告書

2019年度(2019年4月～2020年3月)の海外事業、国内活動、会計報告等をまとめた年次報告書を発行した。JOCSの活動内容と成果をわかりやすく伝えることを目的とし、ワーカーと共に活動する人々や奨学生、協働プロジェクトに関わる現地の人々を紹介した。またJOCSの創立60周年の記念として今までの歩みをまとめたページを設けた。そのほか、国内での活動の報告や支援者の声も掲載した。

例年通り、会報誌6・7月号と夏期募金趣意書を同封し発送した。

発行回数：年1回(6月10日発行)

発行部数：12,000部。発送数は10,500部

体裁：A4版。20ページ

送付先：全支援者

評価：同封したアンケートのうち159通が返信された(回答率1.5%)。印象に残った記事として「60年の歩み」「JOCSの思い」「ワーカー派遣」「奨学金事業」が多く挙げられた。



(3) プレスリリース

株式会社PR TIMESの社会貢献活動である、プレスリリース配信サービスの無償提供プロジェクトを活用したプレスリリースを以下のようにおこなった。

「新型コロナウイルス感染症対策 インドネシアの病院への緊急支援を実施」

リリース日：2020年7月16日

「『自宅でできる国際協力～リサイクル募金キャンペーン』実施」

リリース日：2020年9月15日

(4) 雑誌広告

キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』の7月号(6月発売)と1月号(12月発売)に1ページ広告を掲載した。7月号ではネパールのJOCS奨学生の働きについて、1月号では新型コロナウイルス感染症対策としてのアジア・アフリカの医療施設への緊急支援の報告を掲載した。『百万人の福音』を見てJOCSを知ったという方1名が2020年度入会した。

また、『婦人之友』誌1月号(12月発売)に資料請求ハガキを付けた1ページ広告を掲載した。広告本文ではタンザニアの奨学生を紹介した。この広告を見て3名が入会し、1名が支援者となった。

(5) キリスト教書店での広報活動

いのちのことは社直営のキリスト教書店で、以下のような広報活動をおこなった。

・デジタルサイネージ(電子看板)の掲示(東京)。

- ・書籍購入者全員へのチラシ配布（東京・大阪・通販）。チラシ約2万枚を配布した。82名から資料請求があり、そのうち42名が入会した。

計画していた東京店店頭での活動紹介イベントは、新型コロナウイルス感染防止のため実施を見送った。

そのほか、聖パウロ会の運営する書店「サンパウロ」で書籍購入者へのチラシ配布、バイブルハウス南青山でチラシ設置をおこなったが、それらによる新規寄付者は得られなかった。

（6）教会訪問

新型コロナウイルス感染症拡大により、教会での礼拝・ミサ等の集会は無会衆・人数制限・時間短縮等の対策がとられ、訪問できなくなった。都内の教会で活動報告会を1回、長野県の教会でオンライン活動報告会を1回開催した。4名の新規入会、1名の新規寄付者を得ることができた。理事や会員による教会訪問の有効性について、理事会で共有し、今後の取り組みについて議論した。

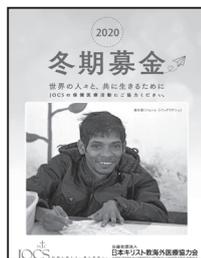
（7）募金

2020年度の募金協力件数は以下のとおりである。

	依頼件数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	10,502件	2,360件	22.5%	24,673,173円
冬期募金	11,001件	4,576件	41.6%	49,442,456円
その他の募金	—	—	—	7,336,430円
国別指定	—	—	—	546,000円
奨学金指定	—	—	—	5,416,000円
災害救援指定	—	—	—	100,000円
海外派遣事業指定	—	—	—	12,000,000円
総計	—	—	—	99,514,059円

夏期募金は、例年通り、6月発送の年次報告書と「みんなで生きる」6・7月号に募金趣意書と払込用紙を同封した。冬期募金では、バングラデシュの岩本直美ワーカー派遣先であるラルシュ・マイメンシンに暮らすメンバーのジョシムと、その周囲の人々を紹介する趣意書を発送した。

夏期・冬期募金の趣意書に会員募集の旨を載せたところ、夏期募金で17名、冬期募金で15名が寄付者から会員へ移行した。また冬期募金の趣意書を、2019年9月から2020年4月までの新規切手協力者929名に発送したところ、55名から新規のご寄付があった。一般寄付の他、特別寄付や奨学金指定、国別指定の寄付が集まった。



(8) 遺贈

2019年度に続いて、高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に、資料請求はがき付きの3ページ広告を掲載した。『明日の友』読者6名から資料請求があった。2020年7月に遺言書保管法が施行されたため、遺贈パンフレットを改訂した。会報、夏期・冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内したところ、電話や年次報告書アンケートによるパンフレット請求が10名からあった。信託銀行から、顧客の依頼により遺言書を作成しているとの表明が1件あった。故人の希望を実現した相続財産の寄付が1件あった。

(9) 物語データベースの作成

活動の中で与えられた様々な物語をJOCSの広報物、活動報告会、啓発冊子等に展開するため、物語データベースを作成した。システムエンジニアに発注したデータベースが完成し、過去の会報『みんなで生きる』に掲載された物語を登録した。

5. 運営体制

新型コロナウイルス感染予防のため、書面表決による社員総会を6月に開催した。理事会では各理事から中長期的な課題に関する発題もされ、活発に協議した。また、理事会の諮問を受けた委員会が、専門的見地から理事会へ答申を行った。

自然災害や感染症の流行等の緊急事態に対しての協力を本邦でもおこなうことを理事会で決議した。これにより、一時帰国中のワーカーによる、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生施設への支援ができるようになった。この変更は、公益認定された事業の受益対象の拡大であるため、内閣府に「公益目的事業の内容の変更」を届け出た。

[5-1] 社員総会

2020年6月13日(土)午後2時から、東京都新宿区キリスト教会館の5階にある日本キリスト教海外医療協力会 東京事務局会議室にて、第59回定時社員総会を開催した。今回は、新型コロナウイルス感染防止のため、書面での出席を呼びかけた。社員総数317名のうち、理事、監事および事務局員である社員15名の出席、委任状194名、書面による議決権行使書の提出50名、計259名を以って、成立した。総会では、まず、2019年

度事業報告がおこなわれ、議事である 2019 年度決算報告、理事及び監事の選任、定款変更、会員規程改定が承認、決議された。議案審議の終了後には、2020 年度事業計画、収支予算報告について説明がなされた。

[5 - 2] 理事会

定例理事会、臨時理事会、電子メールによる臨時理事会（決議の省略）を、以下の日程で開催した。理事会は新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン会議とした。

2020 年	4 月 3 日	電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
	4 月 25 日	オンライン会議
	6 月 13 日 定時社員総会前	オンライン会議
	6 月 13 日 定時社員総会后	オンライン会議
	7 月 18 日	オンライン会議
	9 月 12 日	オンライン会議
	11 月 14 日	オンライン会議
	12 月 23 日	電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
2021 年	1 月 23 日	オンライン会議
	2 月 6 日	臨時理事会 オンライン会議
	3 月 20 日	オンライン会議

2020 年度の理事ならびに監事は次のとおり。

～ 2020 年 6 月 13 日（定時社員総会の終結のときまで）

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、小宅泰郎、久保礼子、土居弘幸、名取智子、榛木恵子、東岡牧、森田隆、柳澤理子

監事：倉辻忠俊、渡部芳彦

2020 年 6 月 13 日～（定時社員総会の終結後から）

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、小宅泰郎、川北かおり、久保礼子、名取智子、本田まり、森田隆、柳澤理子

監事：榛木恵子、渡部芳彦

[5 - 3] 委員会

(1) 財務委員会

委員長：大友宣 副委員長：羽山信輝

委員：山嘉信（2020 年 11 月まで）、飯田多香子（事務局）、小池宏美（事務局）

新型コロナウイルス感染防止のため、協議はオンライン会議にておこなった。また、例年と同じ様に、委員長、副委員長は毎月、委員は四半期ごとに事務局から財務状況の報告を受け、財務運営が適正におこなわれていることを確認した。2020 年度は新型コロナウ

ウイルス感染症拡大により、事業計画を大幅に変更せざるを得なかった。収益見込みと費用の変更に対応するため、予算の補正を2020年10月に協議し、会長及び常務理事に提出した。

次年度予算案作成はこれまで委員会で2回協議をおこなってきたが、年度途中で補正することを前提に、1回の協議で作成することを理事会に提案し、承認を受けた。会計責任者が立案した2021年度予算案は、2020年度決算見込みを確認の上で、2021年2月に協議して調整し、会長及び常務理事に提出した。

(2) 奨学金委員会

委員長：小宅泰郎 副委員長：柳澤理子

委員：澤田和美、杉村（諏訪）恵子（2020年7月まで）、細谷たき子、宮崎雅、石金祐実（事務局）、滝澤さおり（事務局）、竹内里佳（事務局）

1) 2020年度奨学生選考

委員会での協議の結果、申請のあった6カ国50名のうち、31名を採用した。採用結果について理事会に答申し、全員承認された。

対象国	2020年度	
	申請者	支給決定者
インドネシア	12名	6名
カンボジア	1名	1名
ネパール	10名	9名
バングラデシュ	1名	1名
ウガンダ	15名	4名
タンザニア	11名	10名
合計	50名	31名

2) その他の協議

2020年度は新型コロナウイルス感染防止のため、現地モニタリングの実施は見送った。対象国の協力団体からの現状の聞き取り、奨学生の支援状況、奨学金事業国別方針を踏まえ、2021年度の奨学金事業の協力団体について検討し、理事会で承認された。

(3) 地区ボランティア活動委員会

委員長：久保礼子 副委員長：東岡牧

委員：川北かおり、川島泉、宮川眞一
 渋谷理香（事務局）

1) 2020年度に新設された委員会で、隔月で委員会をオンラインで開催した。

2) コロナ禍におけるボランティア活動の可能性、活動の広がり等の可能性を中心に話し

合いを進めた。

[5 - 4] 事務局

2020年は東京事務局は9名、関西事務局は2名の職員体制であった。テレワークを大幅に導入し、通勤による感染の機会を減らした。2020年度は東京事務局、関西事務局とも、新型コロナウイルス感染予防のため、使用済み切手運動に関する仕事、事務局の仕事、などにおいてボランティアの活動を休止した。

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長	森田隆
事務局次長・管理部長	名取智子
東京事務局	飯田多香子、石金祐実、小池宏美、高橋淳子、 滝澤さおり、竹内里佳、森田真実子
関西事務局	渋江理香、岡崎凜（～2月）

6. 社員会員・サポート会員の現状報告

2021年3月31日現在

社員会員	310名
サポート会員	3,218名
合計	3,528名

2020年度中の社員会員、サポート会員の異動

1. 社員会員

(1) 新たに社員会員となられた方	3名
(2) サポート会員から社員会員となられた方	1名
(3) 社員会員を辞し、サポート会員となられた方	2名
(4) 退会された方	12名

2. サポート会員

(1) 新たに入会された方	140名
(2) 退会された方	167名

7. 2020年度の主な動き

4月

- 1日 雨宮春子ワーカー一時帰国
石金祐実氏入局

9月

- 26日 国際保健医療勉強会（オンライン開催）
- 27日 京都JOCSチャリティコンサート（京都府立府民ホール アルティ）

11月

- 28日 国際保健医療勉強会（オンライン開催）

12月

- 12日 足利市民クリスマス（足利市民プラザ小ホール）
- 19日 大阪JOCSカフェ（オンライン開催）

2月

- 5日 国際保健医療勉強会（オンライン開催）
- 28日 岡崎凜事務局員退職

3月

- 31日 渋谷理香事務局員退職